

第4回泉大津市
市民みんなの「未来の学びの場」を
考えるワークショップ

2022年1月29日(土)

本日の予定

時間	内容
10:00～	開会 ・本日のワークショップ進行説明
10:00～ 20分程度	事務局からの説明 ・これまでのワークショップの振り返り ・第3回ワークショップの主なご意見 ・ワークショップの「とりまとめ」について ・本日のテーマのご説明
10:20～ 50分程度	「記入シート」へご意見などの記入 本日の意見交換 【本日のテーマ】 ○ワークショップの振り返り ・ワークショップ全体や「とりまとめ」について ・ご自身ができること、やりたいことについて ・上記のことを実現するにあたっての課題などについて
11:10～	本日及びワークショップ全体の振り返り ・各グループからの報告(1グループ3分程度) ・泉大津市からのご挨拶
11:30	閉会



1. これまでのワークショップの振り返り

実施回	日程	意見交換テーマ・内容	開催場所
第1回	令和3年 10月23日 (土)	教育施設について知ろう ○施設利用の経験 ○教育施設の好きなおところ、使いやすいところ ○利用にあたって不便なこと、問題と思うこと (使ったことがない方は、使いたいけど使えない理由等) ○これからの教育施設は、どのような施設であってほしいと思うか	テクスピア大阪 ミニホール
第2回	11月20日 (土)	教育施設に対する市民の認知度・関心度を高めるためには？ みんなに利用してもらうため、かつ満足度を高めるための工夫は？ ○市民みんなが利用するための機能とは？(ソフト面) ○市民みんなが利用できる・したくなる空間とは？(ハード面)	条南小学校 図書室
第3回	12月18日 (土)	「『未来の学びの場』のあり方(案)」について ○「骨太の方針(仮説)」について ○「具体的な取組例(案)」について ○「取り組むにあたっての課題」について	旭小学校 多目的室
第4回	令和4年 1月29日 (土)	ワークショップの振り返り ○ワークショップ全体や「とりまとめ」について ○ご自身ができること、やりたいことについて ○上記のことを実現するにあたっての課題などについて	旭小学校 多目的室

2. 第3回ワークショップでの主なご意見

骨太の方針に関するご意見

【運営体制】

- ・運営に市民が参加するという体制は賛成。様々な分野、年代の方が参加できる方が、いろいろな目線が入っている。
- ・ボランティア的に参加者を募ることは賛成だが、運営に対する報酬などはしっかりと確保すべきである。

【機能・サービス】

- ・泉大津市内には知らないだけで、すごい人がたくさんいる。こうした人を講師として迎え入れてはどうか。
- ・「先生」として市民に協力してもらおうという明確な方針を示す。フォローする仕組みの整備が重要。

【利用ルール】

- ・柔軟な仕組みを整備することは賛成。
- ・子どもが使いやすいルール作りを思考してはどうか。

【情報発信・ブランディング】

- ・公民館、自治会館等は、オープンなイメージがない。誰でも使えるというイメージの訴求が必要。
- ・無関心層へのアプローチ策については検討が必要。

【建物・設備】

- ・拠点施設と地域交流ゾーンの役割整理が必要。
- ・もともと新しい拠点施設が必要だと思っていた、複合的なものが市域の中心にあればよい。

【立地・アクセシビリティ】

- ・拠点施設をどこに整備するのか、関心が高い。

具体的な取組例

【運営体制】

- ・有償ボランティア、マネジメントに長けた館長を公募するなど。運営スキルのある人を集める。
- ・運営負担を減らすため、オンライン運営チームの組成や運営手法の検討も考えてはどうか。

【機能・サービス】

- ・民間事業者が、試しに出店できる、チャレンジできるような区画を設けてはどうか。
- ・市民講座等のプログラムをオンラインで提供。
- ・地域交流ゾーンについては災害時にどのように利用できるのかを考える必要があるのでは。

【利用ルール】

- ・セキュリティ、施設管理等は、システム、技術を使って省力化できるのではないかな。
- ・使用状況、予約などが一括管理ができる仕組みを整備してほしい。

【情報発信・ブランディング】

- ・情報発信には、活動団体間の横の連携が必要。加えて、その連携ネットワークの中心となる組織が必要ではないかな。
- ・利用希望者のために、相談できる窓口が必要。
- ・市民が各団体の活動に触れる取組はぜひ実施したい。

【建物・設備】

- ・地域交流ゾーン・新しい拠点施設の整備前に、現在の利用者のニーズの把握をするべき。

【立地・アクセシビリティ】

- ・拠点施設等へのアクセス策の確保。

取組むにあたっての課題

【運営体制】

- ・運営に関する人材確保が必要。人手が足りないのではないかな。地域の方に協力してもらおうのであれば人材を育成する仕組みも必要ではないかな。
- ・土日や夜間を含め利用しやすい施設の運用方法の整理が必要。
- ・運営に必要な費用の確保。(民間委託、人件費)

【機能・サービス】

- ・土日や夜間、日中(地域交流ゾーンの場合)なども切れ目なく活動できる環境整備が必要。
- ・活動団体が発表できる機会の確保。

【利用ルール】

- ・現状、公民館は使いにくい状況で、手続きのために申請が必要。社会教育という枠組みでしか使えない。(子供たちの利用等にも課題)
- ・施設を所管する窓口の明確化が課題。

【情報発信・ブランディング】

- ・誰が主導的に情報発信を行うのか、何を伝えるべきなのか今後検討が必要。
- ・スキルのある市民が魅力と感じる仕掛けは何か把握に努めるべき。

【建物・設備】

- ・お金がかかるので、予算とのバランスが必要。
- ・公民館、勤労青少年ホームの機能を1箇所にすることでデメリットを解消する必要がある。

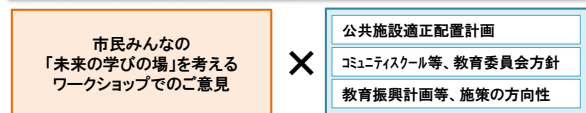
【立地・アクセシビリティ】

- ・地域住民にとっては、小学校区の方が身近に感じられる。機能分担などにおいて、その点に配慮する必要があるのではないかな。
- ・施設が遠くなることで使わなくなるかもしれないため、足の確保が必要。

3. ワークショップの「とりまとめ」について

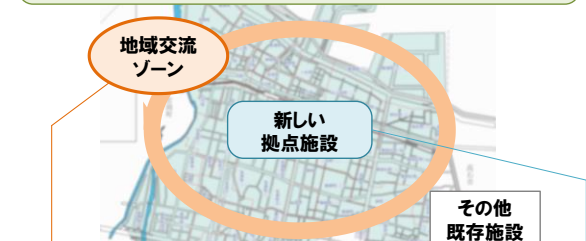
市民みんなの「未来の学びの場」を考えるワークショップとりまとめ

1 市民みんなの「未来の学びの場」として思い描く姿



【コンセプト】

泉大津市全域が、学びのキャンパス
 ～身近な居場所としての複数の「学び場」と、出会いや発見のある交流拠点としての「学び場」で構成～



1.1 【地域交流ゾーン】
 身近な居場所、顔見知りとの交流の場

各校区に配置する施設

子どもたちの安全を確保しつつ、普段のクラブ活動などの練習や、ちょっとした活動の場として気軽に使える部屋や、予約しなくても思い思いに過ごすことができる空間などを整備

【諸室のイメージ】（学校にたとえると…）

- 毎日通って使える“普通教室”（貸しスペース）と“図書室”（サロン）
- クラブ活動のための“部室”（利用者でシェアするロッカールームなど）
- 校区ごとに特色を持つ“特別教室”

1.2 【新しい拠点施設】
 出会いや発見がある「学びの場」、新たなチャレンジの応援がある場

全市の拠点となる施設

特定の活動に必要な設備を備えた部屋や、様々な規模の交流ができる空間などを導入

【諸室のイメージ】（学校にたとえると…）

- 空間と設備が充実した“特別教室”
- 交流のための、大・中・小など様々な規模の“多目的教室”

1.3 【その他既存施設】
 既存施設のさらなる活用

既に泉大津市内にある既存の学校教育施設、生涯学習施設なども活用

- 学校体育館、シーブラ、テクスピア、都市公園、もんとパーク等

2 提供するサービスのあり方 ～新しい拠点施設を中心とした、市民の学びを促進するサービス～

	具体的な取組(案)	取り組むにあたっての課題
2.1 市民が「先生」として活躍できる学びの場	<ul style="list-style-type: none"> □ 講座を開催したい人が柔軟に施設を利用できる運営ルール等の検討 □ リアルと併行してオンラインプログラムを実施（アフターコロナ対応） 	<ul style="list-style-type: none"> ● 「営利目的」となる活動の基準の明確化 ● スキルのある市民を集めるための魅力的な仕掛けづくり ● オンラインプログラムを実施するための環境整備
2.2 新たなチャレンジを応援するサービス	<ul style="list-style-type: none"> □ 新しく活動を始めたい人が相談できるワンストップ窓口（コンシェルジュ機能）の設置 □ 「先生」や運営スタッフになりたい市民を支援する仕組みづくり（研修の実施等） 	<ul style="list-style-type: none"> ● スタッフや「先生」の一定の水準を確保するため、資格・スキル等の基準の設定
2.3 施設としての自主企画	<ul style="list-style-type: none"> □ 市内のクラブ同士で交流するイベントの実施（「おづみんエキスポ※後述」等） 	<ul style="list-style-type: none"> ● とりまとめや運営を行う中心的組織、人材の確保 ● 現在利用していない市民の興味を引き、来館を促すための工夫（有名人を呼ぶ、様々な年代の関心に合わせる等）

3 運営方法のあり方 ～個別の施設を「点」としてではなく、施設全体を「未来の学びの場」＝「面」としてとらえた運営～

3.1 【運営体制】市民参加型の運営体制の構築	<ul style="list-style-type: none"> □ 幅広い世代や立場の市民等のニーズや意見を、運営に反映させるための仕組みづくり（「(仮称)利用者会議」の定例設置等） □ 関心のある市民が、施設運営の支援スタッフとして参画することができる仕組みの設定 □ 運営組織、支援スタッフの負担を軽減するための設備整備の検討（例：施設管理やセキュリティ対策について、IT技術の活用によって省力化等） 	<ul style="list-style-type: none"> ● 市民等のニーズや意見の把握、市民等の支援スタッフの受け入れ等を行い、各施設の管理運営を主体的に行う運営組織の構築又は募集 ● 支援スタッフとしてのスキルのある市民の参画を促すための募集や情報発信、さらには参画した市民の満足度を向上するための工夫（利用者の感謝を届ける等） ● 支援スタッフの質の確保と、その維持・向上のための人材育成（支援スタッフとして参画を希望する市民に対する講習の実施等）
3.2 【利用ルール】時代のニーズに沿ったルール	<ul style="list-style-type: none"> □ 利用者ニーズにあわないルールの変更 	<ul style="list-style-type: none"> ● 利用ルールの設定や変更にあたっての他施設との調整、議会議決 ● ルールを柔軟に変えるつつも、いつ見ても分かりやすくするための工夫（共通のマニュアル、ルールブック作成等） ● 利用目的の枠組みを広げる、手続きを簡素化する等、子供が自由に使いやすいよう配慮したルールづくり
3.3 【情報発信】面白さとお得感のある情報発信！	<ul style="list-style-type: none"> □ クラブの取り組み内容の情報発信等を目的とした「(仮称)おづみんエキスポ」の開催 <p>⇒ 将来は、市内全体の公共施設で一体運用</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 横断的なイベント運営を担う中心的組織、あるいは会議体等の検討 ● 活動団体同士を相互につなぐ等、団体の横の連携を促すためのネットワークの中心となる組織・仕組みの検討 ● 施設を使いたい人が相談できる窓口の設置（将来的に施設数が増えることも踏まえた）受付対応、問い合わせ対応等の窓口の明確化
3.4 施設間連携	<ul style="list-style-type: none"> □ 市民や団体等に各施設を使ってもらい、知ってもらう機会を作る合同イベントの企画 	<ul style="list-style-type: none"> ● 全ての施設の利用状況や団体の活動状況の一元的な把握と、集約した情報の発信

4 施設整備のあり方

4.1 地域交流ゾーンの段階的整備	<ul style="list-style-type: none"> ● 適切な立地場所の選定 ● 公民館等の機能の切れ目がない、整備スケジュールの設定 	4.3 【7ヶセンビリティ】車で行ける駐車場確保等	<ul style="list-style-type: none"> ● 利用者の交通手段に係る利便性の確保
4.2 新しい拠点施設の整備	<ul style="list-style-type: none"> ● 計画・設計にあたっての市民意見の反映 ● 事業実施のための事業手法の検討 		

3. 本日の意見交換のテーマ

テーマ

ワークショップの振り返り

- ワークショップ全体や「とりまとめ」について
- ご自身ができること、やりたいことについて
- 上記のことを実現するにあたっての課題などについて

※ お手元の「記入シート」の質問内容にそって、各テーマについてご意見などを記載していただき、グループの皆さんで、共有してください。

